

海外市場を開拓

米子会社で研磨機拡販

チップトン(本社名古屋市中区、小林知之社長)は、海外市場の開拓に乗り出した。米子会社を通じて、半導体や航空機向けの精密部品市場で需要開拓を進める。現地メーカーや日系企業に対し、精密加工に最適な設備を提案する。アジアでは、タイに海外初の生産拠点を立ち上げる検討に入った。2027年夏ごろの稼働を目指す。用地選定を進める。

(小島圭司、清水美波)

チップトン

タイに生産拠点検討



アリゾナ州メサ市に設立した米国拠点



小林知之社長

100%出資の米子会社を今年4月、アリゾナ州メサ市に設立した。米市場での研磨機拡販やメンテナンスなど、サービス体制の強化が狙いだ。シヨールムには、遠心バレルの進化モデル「重圧バレル機」などのデモ機20台を用意した。受注獲得には、加工状況や精度を示すことが必要のため、米拠点ではテスト加工ができるスペースを確保した。年内に人員も増強し、営業攻勢をかける。

拠点を置く米アリゾナ州



米国市場に売り込む主力の重圧バレル研磨機

の周辺では、半導体やデータセンタ―設備、医療機器や航空宇宙関連向けなどの精密部品市場で開拓余地がある。チップトンが主力とするバレル研磨機は、精密加工に最適とされる。既存の振動バレル式研磨機が主流の米国市場において、重圧バレル機など最先端の技術を提案。米国市場での初年度の売上高は約2億円、2030年には11億円程度まで売上高を引き上げたい考え。

なお、技術の基礎となる遠心バレル研磨機は、研磨容器に工作物、研磨石、水などを充填(じゅうてん)し、容器を回転・振動させ工作物を研磨する加工法。自動車部品から電子部品まで幅広く用いられる。チップトンは1961年、遠心バレル機を世界で初めて開発した。研磨石など消耗品も製造する総合メーカーだ。国内シェア約65%を握る一方、輸出は20%にとどまる。海外市場の本格的な攻略が不可欠と判断した。

高付加価値製品の販売に注力する米国市場に対し、海外勢との競争が激しくなる廉価品製造に向け、タイに初の海外製造拠点を検討している。電子部品から大物の自動車部品用まで廉価品の製造拠点にしたい考えだ。

チップトンの小林社長は「米国は競合が少ないブルーオーシャン。米国をはじめ海外市場を攻める時宜を得た。ここから勝負」と意気込んでいる。